

今後の日程

(5月)

- 7 萬民平等差別戒名追善法会 (高野山)
- 9 拡大県委員会 (同和企业センター)
- 11~14 復帰45年 (第40回)
5・15 平和行進 (沖縄)
- 11 第1回全国農林漁業運動部長会議 (大阪)
- 12 第40回紀の川市人権講座 (古和田会館)
- 13~14 第62回全国女性集会 (岐阜市)
- 15 第35回憲法の破壊を許さない
ランチ TIME デモ
- 22 部落解放・人権政策確立要求
第1次中央集会 (東京)
- 22 厚労省交渉 (雇用)
- 法務省交渉
- 文部科学省交渉
- 農林水産部交渉
- 23 狭山ピラ統一行動
狭山事件の再審を求める市民集会 (日比谷野外音楽堂)
- 29 和歌山人権研究所第4回総会・
第15回記念講演会 (プラザホープ)

◆各支部大会

- 2 那賀・青年部 (那賀総合センター)
- 20 古和田 (古和田会館)
- 27 善明寺/女性部 (善明寺文化会館)
- 29 新宮 (下田隣保館)

人権保育を創造しよう



解放保育の創造をすすめようと参加者に訴える
吉岡正博・中央実行委員長



乳幼児教育について講演する戸内信子・
子どもと育ち総合研究所主任研究員

基調提案のなかでもふれられた「保育所保育指針改定案」にあらたにされるされた「国旗・国歌」の記述に反対するパブリックコメントがよびかけられた。厚生労働省は「国旗掲揚や国歌

斉唱を強制するものではない」としているが、明記されたものが義務付けしたもので、強制につながりかねないと言った。谷田賀代・全人保会長から訴えがあった。2日目の第9分科会で

第39回全国人権保育研究会・部落解放第20回京都府人権・「同和」保育研究会を2月25日、26日、京都府宇治市を全体会場にひらかれ、24府県1600人が参加した。

認め合おう子どもたちを

は、男性保育士に女の子のおむつをかえてほしくないという議論に、男性差別かどうか、ていねいに議論をすべき。保護者は安心できる人に預けたい。大切なのは、親が選択できる環境が整っているかだ。性別にかかわらず、子どもを傷つけていないかをしっかり考えるべきとの意見のほか、子育てに女性という観念が背景にあることもしっかりふまえるべきなどの意見もだされた。また、11時間開所のなかで、正規、臨時、パ

トへの研修は財政的にも時間的にも難しい。職員間の交流をすすめるなかで、研修内容をつたえていけないか模索しているなど、研修への課題が報告された。さらに、子どもが発する「つぶやき」をいかに大切にするか。聞く側の姿勢がないと子どもは、つぶやかなくなる。子どもの背景や実態を知るうえで非常に重要。難しい方法で子どもを知らなくとも、普段の生活にしっかり向き合うことで解決することが報告された。

報告があった保育所から、差別にあうかもしれないと考えたとき、すべての保育目標につながる。みえにくく部分もあるが、差別に立ち向かう力、すり抜けることのできるしなやかさを育てていきたい。自分自身がどうかかわり、どう変わっていくのか解放保育だと思っていると、積み上げられた解放保育のめざす子どもの姿が集約された報告となった。第40回人権保育研究会は、鹿児島で開催予定。

編集長として四半世紀

笠松さんを偲ぶ会

昨年11月30日に亡くなった解放新聞社の編集長を務めた笠松明広さんを偲ぶ会が3月3日、大阪市内のホテルでひらかれ、141人が参加した。

法制定を報告し、遺志を受け継ぎ運動を前進させる」と在りし日の姿を語り、決意を誓った。

◆笠松さんが残した言葉
一人の人間が性を受け、その後、世界とどう格闘しながら生きていくのか。格闘の原点は何か。原点が大きく鮮明なほど、その後の生はそれに規定されていく。

黙とうのあと、9人の発起人を代表して組坂繁之・中央執行委員長から「運動についてよく語り合った。率直に意見をぶつけ合う友人だった。さまざまな思いで闘病生活を送っていた彼

は、一眼レフを肩にかけ、背中にはリュックサックを背負い、ウエストポーチを巻き、左腕には岩手県陸前高田市で取材をするための腕章をつけた取材中の姿が映し出されていた。

会場の前のスクリーンには、一瞬レフを肩にかけ、背中にはリュックサックを背負い、ウエストポーチを巻き、左腕には岩手県陸前高田市で取材をするための腕章をつけた取材中の姿が映し出されていた。



偲ぶ会のようす

妻の瑞恵さんは、家族とともにさみしさを乗り越えようとお礼をのべた。松本龍・副委員長、部落解放文学選者の金時鐘さん、講師の旭堂南陵さん、中北龍太郎・狭山事件再審弁護団事務局長、守安敏司・水平社博物館前館長、故沖浦和光さんの妻、恵子さんが追悼の言葉をのべた。

献杯は赤井隆史・大阪府連執行委員長が、閉会を寺木伸明・桃山学院大学名誉教授がおこなった。

部落解放中央共闘会議 第41回総会がひらかれる

東京・日本教育会館で2月21日、中央共闘会議がひらかれ、和歌山県共闘会議から、入口博文・事務局長(県職)と福島隆志・幹事が参加した。

議事では、則松佳子・事務局長(日教組書記次長)による経過報告、竹内広人・会計による決算報告につづき、則松・事務局長による活動方針(案)の提案、竹内・会計(自治労連帯活動局長)による予算(案)が提案され、質疑・討論のあと採択がおこなわれ、新役員の発表があった。

総会の記念講演では、西島藤彦・中央書記長から「推進法」の成立をふまえた今後のとりくみと題し講演がおこなわれ、総会宣言、団結ガンパローで総会を閉会した。

支局からのお知らせ



お気軽にお電話を!

和歌山支局では、各支部でのとりくみを積極的に紹介していききたいと思えます。支部活動や子ども会活動など、支局までお知らせいただければ、取材に走ります。もちろん、投稿記事も大歓迎! 写真を添えて支局までお送り下さい。(発送先) 〒640-8314 和歌山市神前405-3 部落解放同盟連合会内 解放新聞和歌山支局宛